

平成28年12月1日

安全の手引き

- 第1…防犯の手引き
- 第2…緊急事態に備えた心得

在チュニジア日本国大使館

第1 防犯の手引き

はじめに

チュニジアは、2011年1月の革命から約5年を経過して、政治プロセスは進展し、所謂「アラブの春」諸国の中では唯一民主化移行に成功を収めてきました。他方、地域間の経済格差、高失業率、物価上昇等の革命の要因となった問題が解決されたとは言えない中、隣国リビアにおける内戦の影響等もあり、当国の社会・治安情勢は未だ不安定な状況にあります。

また、2015年3月及び同年6月に多数の外国人が犠牲となる大規模テロ事件、11月には、首都チュニスを目抜き通りで大統領警護隊員等多数が死傷する自爆テロ事件が発生しました。同事件以降、当国治安機関は、テロへの強固な対策をとっており、当国観光施設や大型商業施設、政府関連施設等の警備を強化しています。しかしながら、現在もISIS等のイスラム過激派組織と関係するテロリスト等が当国治安当局に多数摘発されており、当国におけるテロの潜在的脅威は高く、依然として滞在に際しては十分な注意が必要です。

この手引きは、在留邦人あるいは旅行者や出張者の方々が、チュニジアにおいて、犯罪やテロ等の被害に遭わずに滞在して頂けるようにとの願いを込めて作成したものです。

万一、事件や事故に遭ったときに大使館に連絡して頂くのは勿論ですが、日常生活での心配や不安な点がある時にもお気軽にご相談下さい。

目次

1. 防犯の基本的な心構え
2. チュニジアにおける犯罪の特徴
3. 邦人被害の犯罪事例
4. 防犯対策
 - (1) 住居防犯対策
 - (2) 車に関する防犯対策
 - (3) 外出時の対策
 - (4) 性犯罪対策
5. 交通事故防止対策
 - (1) 車を運転する場合
 - (2) 歩行者の場合
6. テロ対策
 - (1) チュニジアのテロ情勢
 - (2) テロ被害防止対策
7. 緊急連絡先
8. チュニジア国内の主な病院
9. 緊急時の言葉

1. 防犯の基本的な心構え

(1) 安全のための三原則の厳守

海外では、「自分と家族の身は自分で守る」という心構えをもって、安全のための三原則、「目立たない」、「行動を察知されない」、「警戒心を怠らない」を念頭において行動することが大切です。

- ・「目立たない」とは、その時々にあわせた服装をする等周囲にできるだけ溶け込むようにすることです。
- ・「行動を察知されない」とは、出出勤・買い物等の時間や道順の定型的なパターンをできるだけ回避することです。
- ・「警戒心を怠らない」とは、外出時は常に周囲の状況確認を怠らないようにすることです。

(2) 予防が最良の危機管理

事件・事故に巻き込まれてしまってからでは後の祭です。予防こそが最良な危機管理であることを肝に銘じ、予防のために必要な努力と経費を惜しまないことが重要です。予防するためには、情報収集を怠らず、一歩先の対策を講じることが大切です。

(3) 現地の実態把握

安全のためだけでなく、現地生活を楽しむためにも現地の実態把握は必要です。市内地図等を利用して、自宅周辺や出先の状況を事前に確認して下さい。また、現地の常識（風俗、習慣、宗教、価値観、社会システム）の認識を深めることも必要です。加えて現地人の表情・動きを読み取る努力も大切です。このような努力を踏まえて初めて危険な事態を察知できるようになるのです。

(4) ネットワーク作りに心掛ける

普段から在留邦人はもとより、隣人、コミュニティー等との付き合い、様々な個人や組織との間でネットワーク作りを心掛けることが重要です。そうすれば、自然と様々な情報が入ってくるとともに、いざというときに隣人の助けも得ることができます。

長期滞在される方は、チュニジア日本人会に加入されることもお勧めします。

(5) 精神衛生と健康管理

生活習慣や慣習の大きく異なる海外での生活は、長時間にわたる緊張を余儀なくされる場合が多く、精神面、肉体面での自己管理が必要です。

(6) 通信手段の確保

万々に備え、滞在中は、可能な限り携帯電話等の通信手段の確保に努めていただくようお願い致します。

2. チュニジアにおける犯罪の特徴

(1) チュニジア人の多くは穏健なイスラム教を信仰しており、一般的に穏やかで暴力を好まない傾向にあります。一方、革命後、国民の意識や社会環境が変化し、都市部への人口流入、高い失業率、物価上昇等の要因もあいまって、一般犯罪発生件数は増加傾向にあります。

(2) メディアでは、様々な態様の犯罪が報道されていますが、なかには刃物を使用した強盗、殺人事件といった凶悪犯罪も見られます。治安当局の発表によると、窃盗（強

盗を含む)が圧倒的多数を占め、強姦等の性犯罪、詐欺等の経済犯罪も多数発生しています。

3. 邦人被害の犯罪事例

革命後、当地への短期旅行者は減少していますので、邦人が犯罪に遭う例は減少していますが、犯罪が凶悪化しています。以下、過去の事例をいくつか紹介しますので防犯対策を考える上での参考にして下さい。

(1) 強盗被害 その1

南部観光地の一人旅をしていた旅行者A(女性)さんは、簡易コテージ(出入口に施錠設備なし)に宿泊中、暑さのため屋外にベッドを出して寝ていたところを地元のチュニジア人2人組に襲われ、頭部を殴られて重傷を負うとともに、現金、カメラ等を盗まれた(事件直後に犯人は逮捕されましたが、被害品は発見されませんでした)。

(2) 強盗被害 その2

チュニス市において旅行中のBさんが買い物を終え、滞在先アパートの部屋に入ろうとした際、男1名が同時に押し入り、Bさんの後方から首に腕を回し、ナイフ(刃渡り15cm位)を首元に突きつけ、Bさんが肩に掛けていたバッグを渡すように脅した。Bさんがバッグを渡すと、男は同アパート前に待機していた共犯者とともにバイクで逃走した。

(3) 強盗被害 その3

旅行者Cさんが、チュニス市のメディナ内を歩いていると、約3m先を歩いていた男が突如振り返り、体当たりをしてきたため倒され、果物ナイフ様の刃物で脅された後、携行していたショルダーバッグを奪われた。(本件は、道が入り組んでいる小さな路地で、日曜日の人通りの少ない時間、場所で発生しました。同事件現場付近では、日曜日に外国人観光客を狙った同様の被害がたびたび発生しているようです。)

(4) 置き引き被害 その1

旅行者Dさんは、チュニス市内のカフェでサッカー観戦をしていたところ、短時間席を離れた隙に、座席近くに置いていたバックを盗まれた(空港、ホテル、レストラン等においては、置き引き被害の例は後を絶ちません)。

(5) 置き引き被害 その2

チュニス在住のEさんは、地元の人でにぎわう市場において買い物を終えて、車両に荷物を積み込むために、持っていたハンドバックを路上に置いた一瞬の隙に、何者かにバックを持ち去られた。

(6) 空き巣被害 その1

チュニス在住のFさんは、日曜日の午前中、家族で買物に出かけ、その数時間後に帰宅したところ、玄関ドアが壊されており、屋内から現金等が盗まれていた(わずかな数時間の不在中に発生しており、計画的犯行と見られます)。

(7) 空き巣被害 その2

チュニス在住のGさんは、旅行から自宅に戻ったところ、自宅裏の勝手口ドアが開放されており、自宅内から現金等が盗まれていた(被害者の家は常時1名の警備員を雇っていましたが、警備員は犯行に気付かず、被害を防げませんでした)。

(8) 車に関する被害 その1

チュニス在住のHさんは、自宅前に駐車していた車の窓ガラスを割られ、ダッシュボードの中からカルト・グリーズ（車両所有証明書）を盗まれた（物品の価値に関わらず、車両内に物を残して車から離れないよう心掛けてください）。

(9) 車に関する被害 その2

チュニジアに業務渡航中のIさんは、旅行会社がチャーターした運転手付の車で夜間、高速道路を高速度で走行中、道路脇から現れた男から車の正面に岩を投げつけられ、車のフロントガラスを突き破った岩により負傷させられた。

(10) 車に関する被害 その3

チュニス在住のJさんは、夜間、自家用車を自宅前路上に停めていたところ、翌朝、車の部品（タイヤ等）が盗まれているのに気づいた（部品狙い）。

(11) ひったくり被害 その1

チュニス在住のKさんは、スース市のメディナを観光後、車に乗り込もうとした際、首に下げていたデジタルカメラを肩にかけ直そうとしたところを2人組の男にひったくられた（デジタルカメラ、携帯電話は狙われやすいので人目につかないように携帯して下さい）。

(12) ひったくり被害 その2

チュニス在住のLさんは、自宅近所の歯科医師の診察を受けるために、路上に自家用車を停めて歩道を歩き始めたところ、後ろから近づいてきた男に、持っていたB5サイズのセカンドバックをはたき落とされた。男は、そのバックを持ち去り、前方約20メートルに待たせていた仲間のオートバイの後部座席に乗ってそのまま逃走した。

(13) すり被害

チュニス在住のMさんは、朝の満員電車（メトロ）の中で、手提げバッグのファスナーを開けられて財布を盗まれた（電車、バスの他、市街地やメディナ等の混雑している場所で、財布や携帯電話がすられる被害が多発しています）。

4. 防犯対策

当地における犯罪被害は類型的なものが多く、日頃からその対策をよく考えて注意すれば未然に防げるものがあります。

(1) 住居防犯対策

(ア) 住居の門扉やドアには2か所以上に頑丈な錠を取り付け、常時鍵を掛けておくこととし、特に、留守にしたり、就寝する時は確認を怠らないこと。

(イ) 窓、ベランダには鉄格子を設置すること（特に低層階）。

(ウ) 屋外灯は明るいものを設置し、視界を遮る樹木等は撤去して死角を作らないようにすること。

(エ) 防犯センサー、防犯ライト等の防犯装置を設置すること。

(オ) 貴重品は鍵のかかる場所に分散して保管すること。

(カ) 使用人は身元をよく確認した上で雇うこと。使用人を過度に信用することなく、行動予定や旅行計画の詳細などは不必要に教えないこと。

(キ) 長期間留守にする時は、信用のできる知人、隣人等に見回ってもらうことその他、

可能であれば信頼できる警備員を雇うことも効果的。

(ク) 来訪者に対しては、インターホン等により、相手の身元、用件を良く確認してから扉を開けること。セールスマンや道聞きの振りをして訪ねてくる者もいるので要注意。そのような人物に対しては、明確に拒絶すること。

(ケ) 番犬を飼うのも効果的。

(コ) 外出する時は特に注意が必要。自宅出入口付近ですれ違う人に対しては、声かけを行い、相手の顔(目)をよく見て、特徴を記憶しておくこと。また、不審な駐車車両がある場合には、ナンバーをメモすること。

(サ) 行動をパターン化せず、日時を変えたり経路を変更したりすること。

(シ) 帰宅時、扉を開く際には、直前に周囲を見回し、こちらをうかがっている者がいないかなど、周囲の状況を確認すること。

(2) 車に関する防犯対策

(ア) 路上駐車を避け、できるだけ車庫・駐車場に入れることとし、人目の届かない場所への長時間駐車は避けること。

(イ) 短時間でも確実にドアロックをすること。警報器の設置も効果的。

(ウ) 車内に物を残さないこと。やむを得ない場合はトランクに入れて鍵を掛けておくこと。

(エ) 車から降りる際には、要注意。付近にこちらの様子をうかがう者がいないかどうかなど周囲の状況を確認して行動に移すこと。

(3) 外出時の対策

(ア) 一人での行動は極力避けること。

(イ) 手荷物を常に身近に持ち、ひったくり等に遭わないような持ち方に留意すること。

(ウ) 当座必要な額以上の現金や貴重品を持ち歩かないこと。やむを得ない場合は目立たないように、着衣の下に隠して身につけるか、信頼がおける場合はホテル等に預けること。

(エ) 人通りの少ない場所、薄暗い場所、見通しの悪い場所等は避けて通ること。

(オ) 言い寄ってくる相手には充分警戒すること。

(カ) 旅行の際、宿泊施設は、一定水準以上の宿泊施設を利用することとし、野宿等は絶対にしないこと。

(キ) ホテルでの宿泊では、現金及び貴重品はフロントに預けること。また、外出、就寝の際は、ドア、窓に必ず鍵を掛けること。

(ク) ヒッチハイカー等を同乗させないこと。

(4) 性犯罪対策

(ア) 昼間でも人気のない場所は避け、夜間の一人歩きはしないこと。

(イ) 男性だけがたむろするような場所に近付かないこと。

(ウ) 肌を露出する部分の多い刺激的な服装での外出をしないこと。

(エ) 女性一人での旅行は避けること。

(オ) 見知らぬ人を家の中に入れていないこと。

(カ) 見知らぬ人の車には絶対乗らないこと。

(キ) 見知らぬ人を車に乗せないこと。

(5) 被害にあった際の対応

路上強盗等の身体犯の場合には、ほとんどの場合が凶器を所持していますので、絶対に犯人には抵抗しないでください。すぐに近くにいる人に助けを求め、警察（197番）に通報するとともに、日本大使館に連絡してください。窃盗被害の場合には、所轄の警察に届け出てください。

5. 交通事故防止対策

チュニジアに来られた邦人の多くは、交通マナーの悪さに驚かれます。チュニジアの交通事情は日本とは大きく異なっており、2車線道路での4車列走行や、方向指示器を点灯せずに車線を変更したり、走行する車の間を縫って横断する歩行者が多く見られる等、交通法規が徹底されていないために、近年交通死亡事故が大幅に増加しています。

そこで、以下の点に注意していただき、「交通事故から自分を守る」という意識で楽しい観光や生活を送っていただければと思います。

(1) 車を運転する場合

- (ア) 走行中は、十分な車間距離、安全な走行速度及び歩行者の飛び出し・横断等に注意するなど、防衛運転に徹すること。（これに尽きます）
- (イ) 免許証、車検証及び車両保険証を必ず携行すること。
- (ウ) 日頃から車両の整備・点検を励行すること。
- (エ) サッカー開催日の試合会場付近の走行は避けること。
- (オ) 交通事故を起こした場合は、警察への通報と負傷者救護を怠らないこと。

(2) 歩行者の場合

- (ア) 交通ルールを守ること。
- (イ) 交差点を横断するときは、信号が青であっても左右の安全を確認すること。特に、車の通行が日本とは逆になるので、よく確認すること。
- (ウ) 車道と歩道の区別がない道路を通行するときは後方車両にも注意すること。

6. テロ対策

(1) チュニジアのテロ情勢

2015年3月に観光地としても有名なバルドー国立博物館に武装したテロリストが侵入し、邦人観光客を含む外国人観光客多数が死傷するという痛ましい銃撃テロ事件が発生しました。また、同年6月にも、スースにある高級リゾートホテルを武装したテロリストが襲撃し、多数の外国人観光客が犠牲となりました。同年11月には、チュニス市の目抜き通りで大統領警護隊員多数が死傷する自爆テロ事件も発生しています。当地内務省は一連のテロ事件を受け、全ての空港や港、博物館等の文化施設や遺跡等の観光施設等の警備を倍増するなど治安対策を強化するとしていますが、テロの脅威は依然として高い状況ですので、滞在中は常に警戒を怠ることなく、各種メディアや大使館からのテロ情報には十分注意してください。

(2) テロ被害防止対策

テロの被害から身を守るために平素から注意して頂きたいことは以下のとおりです。

- (ア) テロの標的となりやすい場所（外国人が集まるレストランや不特定多数の者が集

- まる場所，政府・軍・警察関係施設等）を訪れる際には，周囲の状況に注意を払い，不審な人物や車両などに注意し，「おかしいな」と感じたらその場を離れて下さい。
- (イ) 不審物を見つけたときは，近づかず，現場を離れて下さい。
- (ウ) 外務省の発出するテロ情報等最新情報の入手に努めて下さい。
- (エ) 過去に世界で発生した大規模なテロ事件は，ラマダン期間中（特に金曜日）が多いため，ラマダン及びイード期間中やその前後は従来以上に安全に注意して下さい。
- (オ) 爆弾テロに遭遇した場合，窓ガラス等から離れ，爆風によるガラス片が降りかからない壁際や机・ベッドの下に伏せたり，潜り込んで下さい。爆発音が収まってから周囲を警戒しながら避難して下さい。
- (カ) 銃声が聞こえた場合は，地面に伏せるなど直ちに低い姿勢をとり，頑丈なものの陰に隠れて下さい。その後，周囲の状況を確認した上で，より安全な場所へ避難して下さい。

7. 緊急連絡先

以下は緊急時に連絡すべき公的機関ですが，日頃から信頼できる隣人・知人を持ち，最寄りの警察署，消防署，病院等を把握しておくことも大切です。

(1) 警察 (Police Secours)

緊急通報番号（日本の110番に相当）：197

(2) 消防 (Protection Civile)

緊急通報番号（日本の119番に相当）：198

(3) 救急車

(ア) 国内全域

公営 (Service d'Aide Médicale Urgente)

電話番号：190

(イ) チュニス市内（私立）

Allo Ambulance電話番号：71-780-000

(4) 日本国大使館 (Ambassade du Japon en Tunisie)

電話番号：(71) 791-251, 792-363

住所：9, Rue Apollo XI, Cite Mahrajène 1082, TUNIS, TUNISIE

HPアドレス：<http://www.tn.emb-japan.go.jp/jp/index.html>

開館時間：午前8時30分 ～ 午後0時30分

午後1時30分 ～ 午後5時00分

（但し，夏期，ラマダン期は変更となります）

土，日，祝祭日は休館

8. チュンジア国内の主な病院

比較的設備等が整った国内の主な病院の一部をお知らせしますので，参考として下さい。

(1) クリニック・エル・マナール ; Les cliniques el Manar

（チュニス：エル・マナール）Tel: 71 875 000

(2) クリニック・ラ・スークラ ; Clinique de la Soukra

- (チュニス：スークラ) Tel: 71 758 888
- (3) クリニック・インターナショナル・ハンニバル ;
Clinique Internationale Hannibale
(チュニス：ラック2) Tel: 71 137 400
- (4) クリニック・アメン・ラマルサ ; Clinique Amen la Marsa
(チュニス：マルサ) Tel: 71 749 000
- (5) クリニック・レゾリビエール ; Clinique Les Oliviers
(スース) Tel: 73 242 711
- (6) オピタル・サドック・モカデン ; Hopital Regional Sadok Mokaden
(ジェルバ) Tel: 75 650 160

9. 緊急時の言葉

チュニス市を含め地方都市ではフランス語が通じますが、チュニジア南部の観光地に行きますとアラビア語（チュニジア方言）が主流となります。以下に簡単な緊急時の言葉をまとめました。

日本語	アラビア語（チュニジア方言）	フランス語
「泥棒」	サーラク	ヴォルール
「助けて」	アンナジュダ	オ・スクール
「危ない」	ロッド・ベーラック	アタンシヨン
「救急車」	アンビュランス	アンビュランス
「パトカー」	カラハバ・ボリスィーヤ	ヴォアチュール・ドゥ・ポリース
「警察を呼んでくれ」	アイイトゥリ・シオルタ	アプレ・ラ・ポリース

第2 緊急事態に備えた心得

はじめに

2011年の革命の際にみられたような大規模な暴動等（以下「内乱等」という）が今後も発生する可能性は否定できませんので、万一の緊急事態に備えておく必要があります。

この様な内乱等の緊急事態発生の際には、当大使館としても全力でその対応に当たりますが、そのような状況下では、まず第一に各自が責任を持って自己の安全対策に万全を期するよう努力することが必要です。

そこで当大使館では、そのような時に在留邦人の方が的確、迅速に対応できるよう以下のとおり平素の心構えと必要な準備、緊急時の行動について、必要な諸点をまとめてみました。

在留邦人の皆様は、本マニュアルを参考にして緊急時に落ち着いて対処できるように心がけて下さい。

目次

1. 平素の心構え・準備

- (1) 連絡体制の整備
- (2) 一時避難場所及び緊急時避難先
- (3) 緊急事態における携行品等、非常用物資の準備

2. 緊急時の行動

- (1) 心構え
- (2) 情勢の把握
- (3) 当大使館への通報等
- (4) 国外への退避

1. 平素の心構え・準備

(1) 連絡体制の整備

- (ア) 3ヶ月以上チュニジアに滞在予定の方は、在留届を提出して下さい。
- (イ) 緊急事態は、いつ起こるとも限りません。予めそのような場合の家族間、企業内での緊急連絡方法につき決めておいて下さい。また、お互いに所在を極力明確にするようにして下さい。
- (ウ) 緊急事態発生の際には、当大使館より連絡網を通じて情報を提供するとともに、必要な指示を行いますが、電話回線等が使用できなくなる場合には、NHK海外放送 (<http://www.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/top/index.html>) を通じて連絡を行うことがありますので、FM波や短波を受信可能なラジオ（電池の準備もお忘れなく）を購入しておいて下さい。

(2) 一時避難場所及び緊急時避難先

- (ア) 一時避難場所の検討

内乱等が発生した場合、戦闘、争乱に巻き込まれる可能性があるため、常に周囲の状況に注意を払い、情報を収集し、危険な場所に近付かないことを心がけて下さい。巻き込まれそうになった場合のとりあえずの避難場所について、常日頃から頭に入れておくことが重要であり、自分がどこにいるか(勤務先、通勤途上、自宅等)、自分がどのような事態に巻き込まれそうか等、いくつかのケースを予め想定して各自の一時避難場所を検討しておいて下さい(外部との連絡可能な場所が望ましい)。

(イ) 緊急時避難先

当大使館より、緊急事態発生時の状況に応じて、場合により緊急避難先への集結を指示することがあります。当大使館が指定する緊急避難先は以下のとおりですので、同避難先の位置を確認し、そこに至るルートにつき幾つかのケースを想定しておいて下さい。

- ・大使館：9, RUE APOLLO XI , CITE MAHRAJENE 1082-TUNIS (B.P.163)
TEL. (71)791-251, 792-363,
- ・大使公邸：17, RUE PROCOPE - CARTHAGE HANNIBAL
TEL. (71)721-133

(3) 緊急事態における携行品等、非常用物資の準備

- (ア) 旅券、現金、貴金属等最低限必要なものは、直ちに持ち出せるよう予めまとめて保管しておいて下さい。
- (イ) 緊急時には一定期間自宅での待機を指示することもありますので、非常用食料、医薬品、燃料等を最低限10日分程度は準備しておいて下さい。
- (ウ) 準備しておくべきチェックリストは別添のとおりです。

2. 緊急時の行動

(1) 心構え

緊急事態が発生し、または発生するおそれのある場合に、当大使館は邦人保護の万全を期するため、所要の情報収集、情勢判断及び対策の策定を行い、上記方法により随時通報いたします。

平静を保ち、流言飛語に惑わされたり、群衆心理に巻き込まれることのないよう注意して下さい。

(2) 情勢の把握

- (ア) 当大使館からの連絡は、電話、メール、当館HP等により随時通報いたします。
- (イ) 緊急事態発生の際には、現地、海外報道、衛星放送テレビ等の視聴による情報収集を各自心掛けて下さい。

(3) 当大使館への通報等

- (ア) 現場の状況のうち通報する必要があると思われるものは、随時、当大使館に直接通報して下さい。その他の在留邦人の方の貴重な情報となります。
- (イ) 自分や自分の家族又は他の邦人の生命・身体・財産に危害が及んだ時又は及ぶおそれがあるときは、迅速かつ具体的にその状況を当大使館に報告して下さい。
- (ウ) 緊急事態発生の際には、お互いに助け合って対応に当たることも必要になります。当大使館より在留邦人の方々にも助力をお願いすることもありますので、よろしくご

協力下さい。

(4) 国外への退避

(ア) 事態が悪化し、各自又は派遣先の会社等の判断により、あるいは当大使館の勧告により自発的に帰国、第三国へ退避する場合、その旨を当大使館へ通報して下さい。

(当大使館への連絡が困難である場合は、日本の外務省海外邦人安全課等へ通報するよう努めて下さい)。

(イ) 当大使館が「退避勧告」を発出した場合、一般商業便が運行している間には、それを使って可能な限り早急に国外へ退避して下さい。一般商業便の運行がなくなった場合、あるいは満席でとれない場合等には臨時便利用、あるいはチャーター便の手配により、また、状況によっては、陸路、海上のルートを利用して退避することが必要になってくることもありますので、当大使館の指示に従うようにして下さい。

(ウ) 事態が切迫し、当大使館より退避又は避難のための集結を指示された場合には、上記1.(2)(ロ)で指定した緊急時避難先に集結して下さい。その際、しばらくの間同退避先で待機する必要がある場合も想定されますので、可能であれば上記1.の非常用物資を持参下さるようお願いいたします。なお、緊急事態発生時には場合により当大使館にて同避難先への交通手段をアレンジすることもあります。

(エ) 当大使館で検討した集結場所から国外退避のルートは以下のとおりですので予め頭に入れておいて下さい。

- 航空機利用の場合
 チュニス・カルタージュ空港
- 海上ルート利用の場合
 ラ・グレット港

別 添

緊急事態に備えてのチェックリスト

1. 旅券等

旅券については、常時6ヶ月以上の残存有効期間があることを確認しておいて下さい。旅券の最終頁の「所持人記載欄」は漏れなく記載しておいて下さい。下段に血液型(BLOOD TYPE)何型と記載しておいて下さい。なお、当国における外国人登録証明書、滞在許可証等はいつでも持ち出せる状態にしておいて下さい。出国許可、再入国許可が必要な場合は常に有効なものとしておくことが必要です。

2. 現金、貴金属、貯金通帳等の有価証券、クレジット・カード

これらのものは旅券同様にすぐに持ち出せるよう保管しておいて下さい。現金は家族全員が10日間程度生活できる外貨及び当座の必要のため現地通貨を最低限予め用意しておくことをお勧めします。なお、出国する場合の出国税及び空港使用税の用意も必要です。

3. 自動車の整備等

- (1) 自動車をお持ちの方は常時整備しておくよう心がけて下さい。
- (2) 燃料は常時十分入れておくようにして下さい。
- (3) 車内には、常時、懐中電灯、地図、ティッシュ等は備えおき下さい。
- (4) 自動車を持っていない方は、近くに住む自動車を持っている方と平素から連絡をとり、必要な場合に同乗できるよう相談しておいて下さい。

4. 携行品の準備

避難場所への移動を必要とする事態に備え、上記1～3に加え、次の携行品を備えておいて、直ちに持ち出せるようにしておいて下さい。

- (1) 衣類・着替え(長袖、長ズボンが賢明。行動に便利で殊更人目をひくような華美なものでないもの、麻、綿等吸収性、耐暑性に富む素材が望ましい。)
- (2) 履き物(行動に便利で靴底の厚い頑丈なもの)
- (3) 洗面用具(タオル、石鹸等)
- (4) 非常用食料等

しばらく自宅待機する場合も想定して、米、調味料、缶詰類、インスタント食品、粉ミルク等の保存食及びミネラルウォーターを家族全員で10日間程度生活できる量を準備しておいて下さい。自宅から他の場所へ避難する際にもこれらを携行して下さい。

(5) 医薬品等

家庭用常備薬の他、常用薬、外傷薬、消毒用石鹸、衛生綿、包帯、絆創膏。

(6) ラジオ

NHK海外放送(ラジオジャパン)、BBC、VOA等の短波放送が受信できる電池仕様のもの(電池の予備も忘れないようにして下さい)。

(7) その他

懐中電灯、予備の強力バッテリー、ライター、ろうそく、マッチ、ナイフ、缶切り、栓抜き、紙製の食器、割り箸、固形燃料、簡単な炊事用具、可能ならヘルメット、防災頭巾(応急には子供用のクッション)。